

お互い「よくこの会に出てくれた」というのが実感ではなかろうか。翌朝元気で再会することを約して解散した。

年を重ねるに従い、50年前には分からなかった京都の良さが感じられるようになった。今後は、旧友との再会の機会、そして京都の街を散策する機会を出来る限り長く持ちたいものと思っている。

新潟の地から同志社大学法学研究会同期会に参加して

小澤 忠勝(新潟市在住 秋山ゼミ)

在学当時に比べ夫々歳相応に年齢を加えた卒業以来50年振りの仲間、一昨年の花園ラグビー場以来の仲間と会い、卒業後の経歴に関係なく夏期合宿等の思い出話に花を咲かせ本当に楽しく充実した一日(一泊)でした。残念ですが既に鬼籍に入られた仲間、病で同期会への参加が困難な遠方の仲間もいました。〔以下 参加困難な遠方の仲間への手紙〕

「同期会の席上、貴兄の闘病を聞きました。一別以来50年、元気にお過ごしと推察していただけに、ただただ驚いております。私は癌と宣告され治療を受けなんとか健康を取り戻しました。その経験からはリハビリはきついものがありますが、気長にリハビリに務め、かつての健康な体を取り戻して下さい。軽快・全快を強く祈っています。この同期会があと何年開催されるのか、私自身があと何年参加できるのか微妙ですが自己管理に精一杯努め、参加できる限り参加し続けたいと誓っています。必ず同期会で会いましょう。待っています。健康回復を心から祈ります!!!」

同大卒50年懇親会に参加して

定平 孝之(京都府宇治市在住 金山ゼミ)

大学同期の新田君から突然に名古屋同志社人クラブ会報への寄稿依頼を受けました。そもそもの経緯は、去る3月16日に行われた同志社大学を昭和41年に卒業した法学研究会の仲間が集まったことに起因していると思われます。

当日は夕刻より五条鴨川畔の料理旅館鶴清にて京懐石を味わいながらのひと時を過ごしました。集まった10人は、卒業後50年も経るとそれぞれ皆の頭は白く薄くなりましたが、昔の面影は変わらず懐かしく、和気藹々互いの近況や昨今の世情、学生時代の思い出を語り酒を酌み交わしました。日頃音信不通の小生にとっては、まさに”友遠方より来る、また楽しからずや”の心境でこのような仲間がいることを矜持にしている次第です。今では、法研・移相ともにますます充実した活動を展開しているとの報告に後輩の向学心に拍手し、応援を続けたいと思っております。

最後になりましたが、貴クラブのますますの発展を心より祈念申し上げます。